

新春特集

Ring-Ring

【NPO BEEN通信】 改題

特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク

2019年
新春号
No27

謹 賀 新 年



平成31年の新春を新たな決意でNPOのスタートを切りました。皆様の益々のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

NPOビーン役員一同

前列右より金子監事、倉島理事、小田原顧問、後列大久保副理事長、渡辺副理事長、森山理事長、宮川事務長、小磯監事

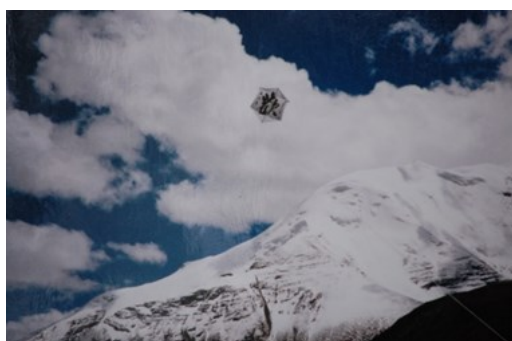
新春随想 天よりも高く

かいと ひろし
海渡 博士

明けましておめでとうございます。平成最後のお正月というわけです。

♪お正月には凧揚げて～～という歌を覚えていらっしゃるでしょうか。お正月には凧揚げ、羽根つき、独楽回しというのは昔からの日本の習慣でした。え?外国ではですか。これは日本だけです。中国でも欧米でも、凧は年がら年中揚げています。三が日の行事になったのは、江戸幕府のせいです。ま、そんな話は後回しにして、この号から凧のお話を連載することになりました海渡博士(かいと・ひろし)と申します。よろしくお願いいたします。

最初編集部からお話があった時、私は「自転車を活用した街づくりに努力していらっしゃるNPOさんが、どうして凧の話を、ですか。日本では凧は子供の遊びとし



か思われていないのに」と申しました。でも「子供」と言ったとたんに私は自転車と凧の共通性に気が付きました。

お父さんが後ろで荷台を支えてくれる子供用二輪車にまたがって、補助輪を外したばかりのフラフラ走りです。スタートした時の興奮。スピードが増すにつれてバ

ランスをとるのがうまくなり、空き地を一周して鼻の穴をふくらませながらお父さんが拍手している場所まで戻ってきた時の感激は、皆さんも経験があると思います。ようし、これでどこへだって行けるぞっと天下をとったような気持ち。

このうれしさは、凧がうまく風に乗って空高く上がった時の気持ちに通じるのです。まるで自分自身がシッポをひらひらさせながら空中に浮かんで、家や車や友達を見下ろしているような素晴らしさ。そうか、編集長はそれを見抜いて企画を立てたのだなと気が付いて、連載をお引き受けしました。

童心にかえって、この天を舞う楽しさを追いつけている人たちが日本にもいます。その名も「飛天隊」といって、結成してから30年以上になります。国内で凧揚げを楽しむだけでなく、安心して凧を揚げられる、電線が無くて、車も走っていない場所を求めて海外の25ヵ国へ遠征して、その国にある民族凧と揚げくらべをしたり、標高5000mの空気の薄い所で酸素ボンベをつけないで揚げたりと冒険もたっぷり。

自分で工夫して作った様々な凧を揚げるのですが、チャンピオンは縦横2mほどの六角形をした和凧です。組み立て式にしましたが、それでも畳んだ長さが1mもあるので、どこの空港でも調べられたそうです。こうした面白い話や、大統領と凧揚げしたり、ついには高さ813mにまで揚げて平面凧世界記録を樹立するといった珍談奇談を飛天隊隊長倉嶋康さんから聴き出してありますので、写真をつけて次号から連載いたします。どうかお楽しみに。

写真はチベットのカロ・ラ(5,045m)で揚げた「歎」凧

2019年の新春を迎えて 副理事長 渡辺 昭男

明けましておめでとうございます。2018年は、自転車環境創造ネットワークにとって新たな礎を築く年でありました。今年は、夜明けの日差しが注ぐ輝かしい年にしたいと頑張っており参ります。NPO法人の使命である自転車を通して、快適な地域社会の創造に貢献していくと共に新たな施設の開拓にも取り組んで参ります。

これまで、駐輪場、バイクイン施設のリニューアルを進めておりますが、運営している9か所の半数近くが完成しております。これからは年次計画で残りの施設も整備し、お客様に快適にご利用いただけるよう環境の整備に努めて参ります。私達は、自転車を取り巻く環境整備の為に、5Kと1Sを掲げて事業に取り組んでおります。これ

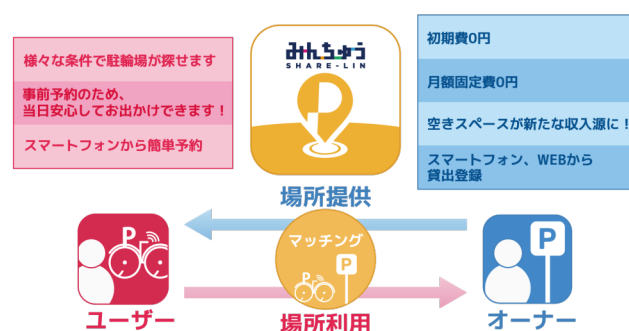
は環境、健康に良い自転車。交通手段としての自転車。観光地での自転車の活用。地域社会の活性化、そして災害時の移動手段としての自転車の活用の意味です。このことを実現するため国の施策、自治体の施策への協力、そして地域社会との連携により実現して参る所存です。今年は、その実現のため猪突猛進と言われても良い年と考え、実行して参ります。そして関係各位さまのご発展の年でありますよう祈念いたします。

駐輪事業の新しい旗手か ～みんちゅう～

全く新しい発想での駐輪施設

従来の駐輪場の常識にとらわれない、IT技術を用いて駐輪場の予約ができる、新しいサービスが登場している。アイキューソフィア株式会社（東京都新宿区 代表取締役社長：中野里美）が提供する駐輪場シェアサービス「みんちゅうSHARE-LIN」は、自転車1台分のわずかな土地・スペースを、誰でも貸し出すことができ、誰でも借りることのできる駐輪場のシェアサービスとなっている。アイキューソフィアが提供するシステムは、スマートフォンアプリ及びインターネットを用いて、スペースの貸し出しから利用予約の全てを行うことが可能であり、スペースの貸し手と借り手をマッチングさせる仕組みとなっている。このサービスを活用して駐輪場を開設するための初期費用は、現場に設置する看板代とライン引きまたはテープのコストのみで、少額である。通常、駐輪場を開設するためには、駐輪スペースにラック、精算機を設置する必要があり、そのための工事が必要となる。「みんちゅう SHARE-LIN」では、貸し出しを行うスペースの写真を撮って、所在地などの基本情報をスマートフォンアプリまたはWEBから登録すればよく、利用者が予約する時点で、使用料の支払いもアプリ上で決済するため、機械を設置する必要がなくなり、ランニングコストが不要となる。

「みんちゅうSHARE-LIN」では、機器設置不要、ランニングコスト0の為に、従来であれば断念せざるを得なかった自転車1台、2台という小さなスペースにおいても、有料駐輪場を運営することが可能になっている。また、機器の設置ができないような変形した土地や、使用されていないデッドスペースも、「みんちゅう SHARE-LIN」であれば運営することが可能となっている。また、通常であれば駐輪場の運営は、機械の償却のため2年、3年といった一定期間運営する必要があるが、「みんちゅう SHARE-LIN」は、その償却という制約がないため、今後建築予定がある場合など、長期間は使用できないスペースや、今後



の予定が未定で使用可能期間を特定できないスペースでも、すぐ運営を停止できるため、有料駐輪場として運営することが可能となっている。

不正駐輪の抑止効果に期待

また、不正駐輪が頻発している場所においては、有料の駐輪場とすることによる不正駐輪の抑止効果があり、不正駐輪対策のシステムとしての活用も大きな特質となっている。このように、「みんちゅう SHARE-LIN」は、従来とは異なる様々な活用が期待できるサービスといえそうだ。

アイキューソフィア株式会社 代表取締役

中野 里美



当社は2017年より次世代駐輪場「みんちゅう SHARE-LIN」のサービスをスタートし、わずかなスペースでもネット上で駐輪場を開設できるシステムということで反響をいただき、一昨年自転車活用推進法が施行されるなか放置自転車や不正駐輪という問題の解決でも高い評価をいただいております。

2018年2月より、神奈川県大和市と行政とは初めての協定を締結して、不正駐輪を抑止していく連携を開始いたしました。10月には埼玉高速鉄道の浦和美園駅で導入をいただくなど、次世代の交通インフラとして様々な場所で活用頂いております。

新春特別寄稿

■まち全体の活性化を！

東海技研株式会社社長 中島 敦



創業43年を迎える当社が駐輪場機器専門メーカーとして産声をあげてから早くも15年、現在までに1000カ所を超える駐輪場を手掛け、地域のお悩みを解決して参りました。レイアウト設計から設置工事、メンテナンスやコールセンターなどのアフターフォローまで一貫体制で行える業界唯一の専門メーカーだからこそ、お客様よりご評価を頂いて積み上げられた実績であると自負しております。

現在、国内外問わず様々な形で自転車の活用シーンが見受けられるようになりましたが、いつの時代も自転車ユーザーにとって欠かせない場所である「駐輪場」は、ただ自転車を停めるだけの施設ではなく、駅前好立地という特徴を存分に活かして魅力的な付加価値を加え、皆様が利用したくなる複合施設などへ進化させていければと考えております。自転車を活用したまちづくり、言い換えれば「まち全体の活性化」に繋がる拠点となるような駐輪場の将来像を見据えて、日々知恵をめぐらせているところでございます。老若男女、様々な利用者が毎日利用する駐輪場だからこそ、安心安全はもちろん、利便性やその他サービスにおいても妥協せず追求していき、当社の機械が「まち全体の活性化」に繋がるきっかけとなれるよう努力することが私共の使命であると心に銘じ、日々邁進しているところです。

昨今、大きな災害が頻発し、災害後には交通機関にも多大なる影響が出ているということは言うまでもありません。それに伴い自転車の需要が急増しているというデータもあり、交通手段としての自転車への関心が年々高まってきていると思います。手前味噌で恐縮で

すが、当グループ企業の株式会社陽報では、先般豪雨被害に見舞われた愛媛県に、ささやかながら義援金と共に自社製の電動アシスト自転車「Let's Bike」を5台寄付させて頂き、大変喜ばれたということがございました。

仕事、遊び問わず、ライフスタイルに自転車に関わるケースが多くなった今の時代、進化するのは自転車だけでなく、駐輪する環境も共に変化を遂げていくことが必要です。これからますますスマートモビリティが普及していくことが想定され、自然や都市環境への配慮、更なる利便性の向上等々、これまでにない価値により社会が活性化していく様を想像すると非常に楽しみでなりません。

■絶対的な安全の確保

しかし一方、先日世界保健機関（WHO）が発表した報告書によると、世界で年間135万人が交通事故により命を落としているとのことで、計算上「24秒に1人」、死者が出ているわけです。死者数は直近3年間



あらゆる角度から協議、検討する社風

で約10万人も増加しており、交通に関わる立場で社会に携わる私共としても、決して無視できない数字だと懸念しております。

「自転車=駐輪場」という単純な考えではなく、「自転車=駐輪場=まちづくり」、さらには「社会に必要なとされる施設」「環境への配慮」「絶対的な安全の確保」などの付加価値をもつ駐輪場が早期に実現できるよう、全社一丸となって尽力して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

国土交通省道路局 山田拓徳氏

法律上では下記のように規定している。それは、自転車活用推進法第9条の要件を要約して述べれば「政府は、自転車の活用の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、前条に定める自転車の活用の推進に関する基本方針に即し、自転車の活用の推進に関する目標及び自転車の活用の推進に関し講ずべき必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を定めた計画を定めなければならない」としている。その第8条には15項目にわたって重点的に検討され、実施されるべき項目が掲げられている。

この策定のため昨年から4回にわ

たって有識者会議を行い、その間に関係者のヒアリングやアンケートを経て推進計画案のとりまとめを行った。本日皆さんにお配りした資料はそのようなスケジュールの中で練り上げてきた案である。この案がさらに固まり次第平成30年の夏までにはこの推進計画を閣議決定をしたい。また同時に地方自治体に於いても同じスケジュールで取り組んでいただいている。

目標及び実施すべき施策として4つの目標と18の項目を掲げている。



山田拓徳氏

有識者の皆さんのご意見やアンケート等により、かなり細部にわたったものとなっている、そして2020年東京オリンピック・パラリンピックを目標に取り組むことになった。

省庁を横断的に取り組む

省庁を横断的に取り組んだ今回の試みをぜひとも成功させたいと思っている。またこの計画が成功するには国民の皆様の自転車に対する意識の向上は欠かせない。それには今日お集りのような皆様の運動が欠かせないものである。国も皆さんが想像する以上にこの問題に本気で取り組んでいることをご理解いただき、ご協力をお願いしたい。

〔第16期総会記念講演から③〕

自転車でアメリカ西部を走る ⑬

出水 豊

自転車愛好家はもとより市民挙げての歓迎となった



いよいよ7月23日はソルトレイク・シティ(SLC)にゴールインする日だ。泊まったモーターから市役所まで自転車で3時間くらいの距離。朝から新聞社やテレビ局が来て写真を写す。時間が無くなるので各社にインタビューは断ってあった。

愛車を昨日盗まれたので、代わりに借りたクロスバイクに乗って、あたりを試し乗りする。今日のために持っていた日米の小旗をハンドルにクロスしてくくりつけた。本当はここまで苦勞を共にしてきたあの自転車につけたかったのだが。

出発！先導は市役所が派遣してきたフロリダ出身の32歳。私の後ろにはエスコートとして派遣された7人が同じようなポロシャツ、半ズボンにヘルメット姿で随走する。

やがて上り坂にかかった。慣れない借り物自転車は尻が痛いし、クラッチがうまく切り替えられない。先に上り切った『先導』が振り返って待ちながらニヤッと笑ったのが見えた。

次はフラット(平坦)。ゆっくり走っていた『先導』は次第にピッチを上げる。私を振り切ろうとの魂胆だ。「なにをっ負けるかっ」とばかり67歳の私もクラッチを切り替えびったり後についた。平坦から下り、また上りとどこまでも2台はつながって走った。

振り返ったらエスコート班は見えなくなっていた。日焼けした『先導』がUターンしてきて私に言った。

「You are a strong man」。追いついたエスコート班のキャップらしいのが先導の交代を命じた。今度は色白、小太りのおとなしい男だった。

市中心部に近づくにつれてあちこちの家から自転車に乗った男女が出てきて、私たちの後に続き、最後は50人くらいになった。報道で知った人たちだ。走りながら私は映画「フォレスト・ガンプ」を思い出した。砂漠を独り走る男に共鳴した人々が次々に参加して最後には長い列になるシーンだ。私は日本の長野からここまで「地球環境を守ろう」と訴えながら走ってきた甲斐があったという誇りに胸がいっぱいになった。

『先導』が道路を外れて広場に入った。そこに横列で拍手をして迎えてくれる100人近い人。立ち止まって見ると中央にはSLCのアンダーソン市長。それと驚いたことに日本から飛んで来た長野市の塚田佐市長も立っている。私に託した「オリンピック環境親書」の伝達式に立ち会うためだ。

塚田市長が言った。「出水さん、私たちも一緒に走ります」。ゴールまであと30分。100人を超す大集団は、『先導』を譲られた私について動き出した。パトカーが前後左右を守る。

新年明けましておめでとうございます。ビーン元年と謳った今年度もホームストレッチに来ました。皆さまのお蔭をもちまして、昨年末には白金高輪のバイクインを東海技研株式会社様、三菱リース様のご尽力によりリニューアルすることができました。これを機にメーカーである東海技研様との

事務局だより

関係を密にして利用者の皆様に喜んでいただける駐輪場を築いていきたいと思ひます。また2面で取り上げました“みんなちゅう”についてもより深い関係を築いてこれからの新しい駐輪場を模索してい

きます。新しい企画として「凧」を取り上げました。執筆は海渡博士氏にお願いしています。氏はこれまで25カ国で凧を上げ“大人の遊び”の達人でもあります。皆様と作る楽しい“りんりん”にして参りますのでよろしくお願い致します。(も)

■発行者:特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク(通称:NPOビーン)

■住 所:〒105-0012東京都港区芝大門2丁目1-18 GSハイム芝大門208号

事務局:TEL03-6435-6160 FAX03-6435-6366 <http://bicycle-been.weebly.com>

